

獅子島幣串と薄井竹島間の7キロを横断するコースと、同幣串から伊唐島一周20キロを回る、獅子島カヌー横断大会が、8月25日に開催されました。

この大会には、7キロコースに町内の小中学生60人が、20キロコースに町外から11人の参加がありました。

大会当日は晴天に恵まれ、小中学生の参加者らは、宮ノ浦港からチャーター船5隻で幣串に渡りました。開会式で池田卓男実行委員長は「初めての試みとなった今大会。町おこしとして今後も続けて行きたい。選手の皆さんは最後まで頑張つて」とエールを送りました。

まず、午前11時30分に20キロコースの選手が花火の号砲でスタート。幣串沖の島々の間を抜け、伊唐島を目指しました。八代海に入ると台風の影響で風波がありました。が、伊唐大橋の真下を通過し、約2時間でゴールしました。

7キロコースは、午後1時にスタートしました。応援に駆

けつけた家族らから「頑張つて」と声援がかけられると、選手らはオールを立て、敬礼の意味でもある権立かたで、お礼の合図を送っていました。選手らは、7隻の救助船と牛深に配属されている海上保安庁の巡視船が見守る中、獅子島を背に隊列を整えながら力強くゴール地点に向かって一こぎ一こぎ前に進みました。時折、潮の流れやうねりで苦戦する場所もありましたが、1時間30分で薄井の竹島へ全員が無事ゴールしまし

た。今回初めて挑戦し、横断制覇を成し遂げた獅子島小学校の梅川翔平くん(6年)は「波が高いところがあったて疲れたが楽しかった。来年も参加したい」と笑顔で話してくれました。前日の24日は、横断大会にあわせて、獅子島の未来を描くフォーラムと前夜祭が、獅子島アイランドセンターで行われました。フォーラムでは、獅子島の住民ら約80人が参加。有識者による離島産業

活性化策の報告や獅子島の現状と将来像について池田安彦さんの発表、「獅子島振興を考える」をテーマとして川添町長らが入ったパネルディスカッションがあり、活発な意見が出ていました。夕方からは、獅子島住民や20キロコースに参加する選手、関係者らを変えた前夜祭が盛大に開催され親交を固めました。会場となった片側集落の婦人会員らは、大漁旗を使用した手づくりの法被をまとい踊りで歓迎しました。



- ①「獅子島の未来を描くフォーラム」で、海外における離島振興事例を話す長嶋俊介氏
- ②パネルディスカッションで獅子島振興を訴え、意見を述べる参加者
- ③横断大会の前夜祭で、踊りで歓迎する片側集落の婦人会の皆さん
- ④フォーラム関係者や横断大会の参加者、獅子島の皆さんが懇親を深めた前夜祭